

[別紙2]

審査の結果の要旨

氏名 宮本 悦子

本研究は、前立腺癌の発症におけるパーソナリティ及び生活習慣要因の寄与の程度及びそのメカニズムを検討したもので、下記の結果を得ている。

1. まず生検前の入院患者 167 名を対象にして調査をおこない、前立腺癌発症における食生活習慣要因の寄与及びそれらと交絡、相乗効果を示す可能性のある身体的要因を説明変数として、多重ロジスティック回帰分析を行なった結果、レチノールの摂取量低下と前立腺癌家族歴が選択され、それぞれ独立に前立腺癌発症リスクファクターと見なしうることが示された。

2. 次に、パーソナリティー要因の寄与を調べるため、パーソナリティー関連要因を説明変数として、多重ロジスティック回帰分析を行なった結果、タイプ 1 パーソナリティ（社会的同調性）のみが選択され、レチノール、前立腺癌家族歴を説明変数に加えても、独立して有意に関与していることが示された。さらに、癌であると予測することや、癌に罹患していることの身体的影響が何らかの影響をもたらしているのではないかと考えて、患者による予測と PSA を共変量とした結果でも、タイプ 1 パーソナリティは独立に有意な関連を示すことが明らかになった。

以上、前立腺癌の発症におけるパーソナリティを中心とした検討は本研究が初めてであり、生活習慣要因ではレチノール摂取不足、パーソナリティー要因ではタイプ 1（社会的同調性）が独立に前立腺癌発症との有意な関連を示したことも本研究の特徴と言える。よって、前立腺癌の発症におけるパーソナリティ及び生活習慣要因の寄与の程度及びそのメカニズムを検討するにあたり、本研究は重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。